実務保健師の災害時のコンピテンシー・チェックシート

所属　都道府県・市町村・その他（該当に○）　　　職種（　　　　　　　　）

災害対応経験または被災地支援経験　　有　・　無　　　自治体入職後の経験年数（　　　　　）年

**【Ⅰ 超急性期（フェーズ0～1）発災直後～72時間】**

１：自信がない　２：あまり自信がない　３：おおむねできる自信がある　４：できる自信がある

|  |  |
| --- | --- |
| **実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び****必要な知識･技術･態度の内容** | **チェック日****（年月日）** |
|  |  |  |
| **Ⅰ-1．被災者への応急対応** |
| **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先（保健福祉事業実施中の対応も含む） |
| コンピテンシー | (1)被災者・避難者の中から重症傷病者等の救急医療の必要な人、持続的な医療やケアが必要な人、配慮の必要な人を特定し、緊急搬送、福祉避難所への移送、別室等での対応を行う。また緊急ではない要医療者の手当て、要配慮者への継続的な見守りを行う。 |  |  |  |
| (2)保健福祉事業実施中の場合は、事業参加者の安全を確保し住民の不安が最小限となるよう統括保健師と連携の下、住民に情報提供を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)心身のアセスメント |  |  |  |
| 2)保健福祉的視点からのトリアージ |  |  |  |
| 3)応急手当の実施 |  |  |  |
| 4)要配慮者の判断基準 |  |  |  |
| 5)災害時の倫理的な判断と行動 |  |  |  |
| 6)保健福祉事業中の災害発生に対する住民の安全確保と対応方法の理解 |  |  |  |
| 7)自身の安全確保と組織活動を意識した行動の実施 |  |  |  |
| **活動場所：**避難所、その他被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (3)避難者の健康観察、避難環境の整備により、二次的な健康被害の発生を予防する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)災害時の二次的健康被害の理解 |  |  |  |
| 2)避難先での被災者の健康状態の把握 |  |  |  |
| 3)避難環境のアセスメント |  |  |  |
| 4)感染症予防対策の実施 |  |  |  |
| 5)急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する理解 |  |  |  |
| **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (4)必要な応援内容と人員を判断し、統括保健師へ報告する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)応援の必要性の判断 |  |  |  |
| 2)指示命令系統の理解 |  |  |  |
| 3)統括保健師と実務保健師の役割分担の理解 |  |  |  |
| 4)応援者の種別・特性や要請の仕組みの理解 |  |  |  |
| **Ⅰ-2．救急医療の体制づくり** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (5)診療可能な病院、医療の確保を必要とする被災者に関する情報収集を行う。 |  |  |  |
| (6)医療を必要とする被災者への医療提供体制づくりについて統括保健師を補佐し協働する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)地域医療の稼働や緊急受入に関する情報収集 |  |  |  |
| 2)医療依存度の高い被災者に関する情報収集 |  |  |  |
| 3)統括保健師を補佐する役割の理解 |  |  |  |
| 4)地域防災計画における医療救護体制の理解 |  |  |  |
| **Ⅰ-3．要配慮者の安否確認と避難への支援** |
| **活動場所：**保健活動拠点及び地域包括支援センター等 |
| コンピテンシー | (7)平時から把握している要配慮者のうち早急に安否確認の必要な対象者を判断する。 |  |  |  |
| (8)安否確認の体制づくりを行う。 |  |  |  |
| (9)安否確認のもれ、不明者の確認に対する持続的な管理を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)安否確認の必要な要配慮者の優先度に関する判断 |  |  |  |
| 2)要配慮者の避難行動及び避難先での生活に必要な支援対応に関するアセスメント |  |  |  |
| 3)連携が必要な関係者の特定と要配慮者への持続的な支援及び管理の体制づくり |  |  |  |
| **Ⅰ-4．被災地支援のアセスメントと受援ニーズの明確化（迅速評価）** |
| **活動場所：**救護所、避難所、その他被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (10)避難所等巡回、関係者及び災害対策本部等からの情報を活用して、被災者のヘルスニーズの概要を迅速に把握し、優先度を高くして対応すべき地域の課題と対象を明確にする。 |  |  |  |
| (11)地域の現有資源による対応力を踏まえたときに受援が必要である課題及び対象を明確にする。 |  |  |  |
| (12)既に被災地で活動を開始している支援チームについて情報収集する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)避難所等巡回による情報収集の体制づくり |  |  |  |
| 2)関係者や災害対策本部から入手した情報の活用 |  |  |  |
| 3)被災地域の迅速評価 |  |  |  |
| 4)数量データによる、健康課題の根拠の提示 |  |  |  |
| 5)優先度の高い課題と対象のリストアップ |  |  |  |
| 6)受援の必要性と内容に関する判断 |  |  |  |
| **Ⅰ-5．外部支援者の受入に向けた準備** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (13)受援に際して外部支援者に依頼する内容を特定し、具体的な期間、人数、依頼内容を計画し、統括保健師に報告する。 |  |  |  |
| (14)市町村と保健所との連携の下で、外部支援者が効果的に活動できるように受入の準備を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)外部支援者の種別・職務の理解 |  |  |  |
| 2)被災現地の保健師と外部支援者の協働の理解 |  |  |  |
| 3)外部支援者が効果的に活動できるための体制・調整の理解 |  |  |  |
| 4)保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの理解 |  |  |  |

**【Ⅱ 急性期及び亜急性期（フェーズ2～3）中長期】**

１：自信がない　２：あまり自信がない　３：おおむねできる自信がある　４：できる自信がある

|  |  |
| --- | --- |
| **実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び****必要な知識･技術･態度の内容** | **チェック日****（年月日）** |
|  |  |  |
| **Ⅱ-1．被災者に対する持続的な健康支援の体制づくり** |
| **活動場所：**避難所等被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (15)被災者・避難者の心身の健康状態をアセスメントし、セルフケアのために必要な情報や仕組みを判断する。 |  |  |  |
| (16)二次的健康障害を未然に予防するための対策を講じる。 |  |  |  |
| (17)関連死のリスク兆候を早期に把握し必要な個別対応と予防対策を講じる。 |  |  |  |
| (18)住民による主体的な健康管理及び避難所運営管理者等と連携した健康管理の体制づくりを行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)個人・家族による健康管理のセルフケアの体制づくり |  |  |  |
| 2)成長発達段階、ジェンダーに考慮した支援 |  |  |  |
| 3)亜急性期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識 |  |  |  |
| 4)グリーフケアに関する知識 |  |  |  |
| 5)廃用性症候群の理解と防止策の実施 |  |  |  |
| 6)関連死のリスク兆候の理解と対応 |  |  |  |
| 7)避難所の運営管理者との連携 |  |  |  |
| 8)長期化する避難生活において想定されるヘルスニーズと連携すべき専門職や専門チームに関する理解 |  |  |  |
| **Ⅱ-2．避難所の衛生管理及び安心・安全な生活環境の体制づくり** |
| **活動場所：**避難所等被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (19)環境衛生の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。 |  |  |  |
| (20)安心・安全の視点から避難所の生活環境をアセスメントし具体的な方策を提案する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)避難所の衛生環境及び生活環境に関する知識とアセスメント |  |  |  |
| 2)発達段階やジェンダーの違いにより配慮の必要な生活環境管理に関する知識 |  |  |  |
| 3)感染症予防・食中毒予防に関する技術 |  |  |  |
| 4)災害時における啓発普及の技術 |  |  |  |
| **Ⅱ-3．被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）** |
| **活動場所：**避難所等被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (21)避難所単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握すると共に、避難所の統廃合等の状況変化に応じて生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。 |  |  |  |
| (22)未対応、潜在化しているニーズを明らかにする。 |  |  |  |
| (23)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。 |  |  |  |
| (24)重点的に対応すべきヘルスニーズを検討し対応策を提案する。 |  |  |  |
| (25)災害対策本部に求める対応の根拠を作成する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | １)モニタリングによる持続的な情報の蓄積と分析 |  |  |  |
| 2)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討 |  |  |  |
| 3)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解 |  |  |  |
| 4)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討 |  |  |  |
| **Ⅱ-4．外部支援者との協働による活動の推進** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (26)災害対策本部の情報、健康支援活動の方針を支援者間で共有し、各役割を明確にしながら連携協働できる体制をつくる。 |  |  |  |
| (27)外部支援者から受けた相談事項へ対応すると共に、外部支援者の報告から得たヘルスニーズを地域のヘルスニーズの検討に活かす。 |  |  |  |
| (28)人員の適正配置に関してアセスメントを行い必要な調整を提案すると共に、避難所の統廃合等の状況の変化に応じて外部支援者の共同体制の再構築を図る。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | チームビルディングの方法の理解 |  |  |  |
| 協働活動を効果的に進めるための会議運営技術 |  |  |  |
| 短期交代する外部支援者の活動の質の担保及び情報の見える化 |  |  |  |
| 外部支援者が捉えたヘルスニーズへの対応と情報の活用 |  |  |  |
| 外部支援者の適正配置のアセスメントと変化するニーズを踏まえた共同方法の調整 |  |  |  |
| 保健所による、都道府県・外部支援者・被災市町村のリエゾンの活用 |  |  |  |
| **Ⅱ-5．要配慮者への継続的な支援体制づくり** |
| **活動場所：**避難所等被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (29)要配慮者のニーズを持続的に把握し、地域包括支援センター等の関係部署や関係機関と連携･協働して支援を行う。 |  |  |  |
| (30)介護・福祉サービスの中断状況の把握と再開への調整支援を行う。 |  |  |  |
| (31)避難所の生活環境を要配慮者の視点からアセスメントし調整の必要な事項について避難所運営管理者に助言する。また必要に応じて地域住民の理解促進を助ける。 |  |  |  |
| (32)福祉避難所の環境衛生、個別対応について、生活相談職員等の支援者への助言を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)二次的健康被害及び不利益を被り易い要配慮者の健康・生活状態の持続的なアセスメント |  |  |  |
| 2)避難所生活の長期化による心身への影響と新たな要配慮者の出現あるいは状況悪化への対応と関係者との連携 |  |  |  |
| 3)介護・福祉サービスの中断者への対応 |  |  |  |
| **Ⅱ-6．自宅滞在者等への支援** |
| **活動場所：**避難所外の被災者の避難先 |
| コンピテンシー | (33)自宅滞在者等の二次的健康被害防止のため健康管理に必要な情報提供を行う。また支援の必要性のある個人・家族の把握のため健康調査を企画・実施する。 |  |  |  |
| (34)新たに支援が必要な要配慮者を把握し、情報や支援の提供につなげる。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)地域の多様な場において支援の必要性のある個人・家族の把握と対応 |  |  |  |
| 2)車中泊・テント泊等の二次的健康被害の予防と対策の理解 |  |  |  |
| 3)潜在的な支援ニーズ把握のための健康調査の企画と実施の体制づくり |  |  |  |
| **Ⅱ-7．保健福祉の通常業務の持続・再開及び新規事業の創出** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (35)保健事業の継続や再開について、根拠、優先順位、必要とする人員・物資・場等を判断し、実施に向けて調整する。必要時、応援要請する。 |  |  |  |
| (36)保健事業の再開を通して、被災者のヘルスニーズを把握する方策を持つと共に、要配慮者を把握し適切な支援につなげる。 |  |  |  |
| (37)庁内の他部署・他の関係機関の事業の継続・再開等の動きを把握する。 |  |  |  |
| (38)既存事業の工夫に加え、新規事業の創出の必要性について検討し提言する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)保健福祉事業の中断、継続、再開の意義や必要性についての判断と根拠の提示 |  |  |  |
| 2)ニーズに基づいた新規事業の企画と必要な人的・物的・財政的資源の提示、期待される成果、及びそれらの根拠の提示 |  |  |  |
| **Ⅱ-8．自身・同僚の健康管理** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (39)自身・同僚のストレス・健康状態の把握と休息の必要性について判断する。 |  |  |  |
| (40)ミーティング等の対話の場を通して、同僚相互の状況理解、それぞれの思いを尊重し、各人の役割遂行への敬意を示す。 |  |  |  |
| (41)活動の振り返りと意味づけを行う時間をつくる。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)自身及び職場のストレスマネジメント |  |  |  |
| 2)被災自治体の職員のストレス反応とこころのケアの理解 |  |  |  |
| 3)同僚相互の健康観察及び思いや役割遂行の理解と活動を意味づける場の重要性の理解 |  |  |  |

**【Ⅲ 慢性期（フェーズ4）復旧・復興期】**

１：自信がない　２：あまり自信がない　３：おおむねできる自信がある　４：できる自信がある

|  |  |
| --- | --- |
| **実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び****必要な知識･技術･態度の内容** | **チェック日****（年月日）** |
|  |  |  |
| **Ⅲ-1．外部支援撤退時期の判断と撤退後の活動に向けた体制づくり** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |  |  |  |
| コンピテンシー | (42)被災地における復旧・復興期の活動計画を具体化するために必要な業務量を推定する。 |  |  |  |
| (43)地元のマンパワーの確保状況、医療・保健・介護・福祉サービスの再開状況、復旧・復興期の活動方針に照らして、外部支援者の撤退の時期について判断する。 |  |  |  |
| (44)受援の終息を見越して活動の引継ぎに関する計画を策定する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | １)復旧・復興期における活動計画及び人的・物的・財政的な資源確保の方策立案 |  |  |  |
| 2)地元のマンパワーの確保と活用及び地元の支援人材の育成に対する計画立案 |  |  |  |
| 3)外部支援者の撤退時期の判断と引継ぎ計画の立案 |  |  |  |
| **Ⅲ-2．被災地域のアセスメントと重点的に対応すべきヘルスニーズの把握（継続的な評価）**  |
| **活動場所：**応急仮設住宅等の被災者の居住先地域 |  |  |  |
| コンピテンシー | (45)仮設住宅単位、地区単位に、地域住民のヘルスニーズを持続的に把握する方法を構築すると共に、仮設住宅等移動後に生じるヘルスニーズの変化を明らかにする。 |  |  |  |
| (46)未対応のニーズ、潜在化しているニーズを明らかにする。 |  |  |  |
| (47)被災自治体庁内の関連部署及び外部の関連機関・施設の活動の動向について情報を把握する。 |  |  |  |
| (48)きめ細かく対応すべきヘルスニーズを検討し、活動の在り方を判断する。 |  |  |  |
| (49)定期的な健康生活調査等に基づき、被災者の健康課題の明確化を図り、対策につなげる。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)復旧・復興期に生じ易い被災者の健康問題及び生活上の問題の理解 |  |  |  |
| 2)被災者の居住先が分散化する状況下での持続的なヘルスニーズ把握のための方法の構築 |  |  |  |
| 3)ヘルスニーズの変化、未対応のニーズ及び潜在化しているニーズの検討 |  |  |  |
| 4)活動の動向を情報収集すべき庁内の関連部署及び関連機関・施設の理解 |  |  |  |
| 5)重点的に対応すべきヘルスニーズと活用する資源の検討 |  |  |  |
| **Ⅱ-3．被災地域住民への長期的な健康管理の体制づくり** |
| **活動場所：**応急仮設住宅等の被災者の居住先地域 |
| コンピテンシー | (50)要配慮者の応急仮設住宅等への移動後の生活状況とヘルスニーズを把握する。 |  |  |  |
| (51)継続支援が必要な住民の選定基準を明確にし、関係者と連携した支援体制を構築する。 |  |  |  |
| (52)健診等の結果や健康実態調査等の情報を活用して被災者の健康状態を持続的に把握すると共に必要に応じて個人・家族に支援を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)復旧・復興期の被災者の心理的反応とこころのケアに関する知識・技術 |  |  |  |
| 2)継続支援が必要な住民の選定基準 |  |  |  |
| 3)住民の長期的な健康管理に活用できる情報源及び地域資源の理解 |  |  |  |
| 4)住民の長期的な健康管理に対する市町村と保健所との重層的な役割分担 |  |  |  |
| 5)関係者との連携による持続的な支援体制づくり |  |  |  |
| **Ⅱ-4．生活再建・コミュニティへの支援** |
| **活動場所：**応急仮設住宅等の被災者の居住先地域 |
| コンピテンシー | (53)応急仮設住宅入居者、自宅滞在者などが生活再建に向けて自助力・共助力を高めることを支援する。 |  |  |  |
| (54)地域の文化、地域住民の気質・価値観などの尊重と配慮について支援者間で共有を図る。 |  |  |  |
| (55)被災地・被災者のみならず住民全体の支援ニーズを踏まえた活動を行う。 |  |  |  |
| (56)生活不活発病や閉じこもり予防のための活動を企画･実施する。 |  |  |  |
| (57)生活圏域を単位に住民や関係者と連携・協働した地域活動の企画実施を行う。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)支援団体・ボランティアによる支援と被災者の自助力の見極め |  |  |  |
| 2)地域の強みや弱み、地域資源に関する地域診断 |  |  |  |
| 3)住民の自助力・共助力を活かした地域活動の技術 |  |  |  |
| 4)民間の支援団体を含む分野を超えた多様な立場の関係者との連携 |  |  |  |

**【Ⅳ 静穏期（平常時の備えの時期）】**

１：自信がない　２：あまり自信がない　３：おおむねできる自信がある　４：できる自信がある

|  |  |
| --- | --- |
| **実務保健師に求められる災害時のコンピテンシー及び****必要な知識･技術･態度の内容** | **チェック日****（年月日）** |
|  |  |  |
| **Ⅳ-1．地域住民や関係者との協働による防災・減災の取り組み** |
| **活動場所：**地域活動 |
| コンピテンシー | (58)災害を想定した場合の地域の健康問題及び支援対応の脆弱性や強みに関するアセスメントを行う。 |  |  |  |
| (59)アセスメント結果に基づき、住民や関係者との協働による防災・減災に対する取組計画を策定する。 |  |  |  |
| (60)平時の保健福祉事業の場に、災害対応について住民と共に考える機会を織り込む。 |  |  |  |
| (61)平常時のかかわりを通じて、災害時の健康支援への協力者となりうる地域住民や地元の関係者と保健師との信頼関係を構築する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)災害を想定した場合の地域の脆弱性や強みに関する地域診断 |  |  |  |
| 2)保健福祉事業の場の活用による、災害対応について住民と共に考える機会の企画・実施・評価 |  |  |  |
| 3)住民や地元の関係者との信頼関係の構築及び有事における連携協働のイメージの構築 |  |  |  |
| **活動場所：**地域活動 |
| コンピテンシー | (62)要配慮者の災害時の避難行動や避難所での生活を想定した場合の地域の脆弱性や強みをアセスメントする。 |  |  |  |
| (63)災害時における共助について住民や関係者と共に考える場を企画する。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)災害時対応を想定した場合の要配慮者に対する地域の脆弱性や強みに関する地域診断 |  |  |  |
| 2)災害時の共助について住民及び関係者と共に考える場の企画・実施・評価 |  |  |  |
| **Ⅳ-2．災害時の保健活動の地域防災計画、マニュアル、仕組みへの反映** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (64)地域防災計画から、災害時の保健師の位置づけを確認する。 |  |  |  |
| (65)地域防災計画と災害時保健活動マニュアル等の実施計画との関連及び整合性を図る。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)所属自治体における所属組織の分掌と指示命令系統の理解 |  |  |  |
| 2)職能を活かした災害時の活動体制の実質化を図るための庁内での合意形成への参画 |  |  |  |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (66)被害想定に基づき、受援の内容や方法について、全ての災害サイクルに対して、その意義や必要性を確認する。 |  |  |  |
| (67)応援・受援に関する計画を立案し組織で共有する。 |  |  |  |
| (68)地域防災計画、所属部署の災害時活動マニュアルに受援体制を位置づける。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)応援・受援計画の立案への参画 |  |  |  |
| 2)地域防災計画及び災害時活動マニュアルへの受援計画の明文化と庁内での共有への参画 |  |  |  |

|  |
| --- |
| **Ⅳ-3． 要配慮者への災害時の支援計画立案と関係者との連携の促進** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (69)要配慮者の情報の管理体制・活用方法について関係者間で共有を図る。 |  |  |  |
| (70)要配慮者の個別支援計画を当事者及び関係者と共に立案する。 |  |  |  |
| (71)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための方策を企画・実施・評価し、自治体の施策として取り組むべきことを明確にする。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)要配慮者の個別の災害時支援計画の立案 |  |  |  |
| 2)要配慮者の個別支援計画等の実効性を高めるための訓練等の方策の企画・実施・評価 |  |  |  |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (72)要配慮者への災害時支援マニュアル等を作成し関係者間で共有する。 |  |  |  |
| (73)要配慮者避難支援連絡会議等の平時からの設置と連絡会の役割、業務等の検討を行う。 |  |  |  |
| (74)災害時要配慮者名簿の活用方法について関係関連部署での合意を図る。 |  |  |  |
| (75)要配慮者への医療介護等に関与している関係者と各種の協議会等を通じて、平時から組織的な連携強化を図る。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1) 災害サイクルを通じて要配慮者に必要とされる促しと関係者間の支援についての共通認識の形成の場への参画 |  |  |  |
| **Ⅳ-4．災害支援活動を通じた保健師の専門性の明確化** |
| **活動場所：**保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (76)災害時の活動経過を検証するために記録や資料を整理する。 |  |  |  |
| (77)災害時の対応経験を振り返り意味づけを行うことを通して学びと教訓を得る。 |  |  |  |
| (78)災害時の活動経験を人材育成に活かす。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)災害対応経験の振り返りと意味づけを行う場や機会の創出 |  |  |  |
| 2)災害時の対応経験を人材育成につなげるための研修の企画・実施 |  |  |  |
| **Ⅳ-5．自身及び家族の災害への備え** |
| **活動場所：**自宅、保健活動拠点 |
| コンピテンシー | (79)災害時の自身の安全確保や健康維持のために必要な物資を備蓄する。 |  |  |  |
| (80)災害発生時の家族間の安否確認方法、居住地の避難所及び避難経路等を確認しておく。 |  |  |  |
| (81)勤務中に災害が発生した時の対応についてあらかじめ家族間で話し合っておく。 |  |  |  |
| 知識･技術･態度 | 1)災害発生時に自身や家族に起こりうる状況の理解 |  |  |  |
| 2)個人の安全・健康維持に必要な物品の理解 |  |  |  |
| 3)家族間の安否確認・連絡方法に対する理解 |  |  |  |